

被災体験が与えた認識の変化（2）

—被災地の大学生の報告から—

西野 美佐子

（東北福祉大学）

【目的】東日本大震災の経験は、人によっては PTSD（心的外傷後ストレス障害）を与える一方で、通常の生活では得難い人生にとって大切なものに気づき人間としてのあり方や自分の生き方を変える契機となるなど、貴重な学びを得て成長をもたらすことが指摘されている。本報告の目的は、辛い経験が与える認識の変化、いわゆる心的外傷後の成長（PTG）に注目し、その内容を調べることである。

【方法】《質問紙調査を実施》研究の趣旨を説明し、本人同意の上自由記述で回答を求めた。

《質問項目》（問1）東日本大震災を経験して自分が変化したと思ったことはありますか？それはどんなことですか。差し支えない程度に教えてください。（問2）3.11.の辛い体験を経験し今あるあなたに、そこから得たことをメッセージとして伝えたとしたら、それはどんなことですか？

《調査対象》宮城県内の福祉系私立大学で学ぶ学生合計 587 名 《調査時期》2012 年 6 月～7 月中旬

【結果】本人の同意を得て記述に応じた 587 名全員が「認識が変化した」と回答。それは何かの回答として自由記述された内容を再分類した結果、878 個の意味の小記述に分類された。「自分へのメッセージ」に関しては、604 個の意味の小記述に分類された。表 1 は、それらを類似の 10 のカテゴリに再分類した結果、表 2 は、「自分へのメッセージ」のカテゴリ毎の数と割合を示したものである。

表1 震災が与えた認識の変化の内容カテゴリ分類

カテゴリ	数	割合	カテゴリ	数	割合
1.家族や友人や近隣の人の絆	236	26.88	6.危機管理や防災意識の高揚	65	7.40
1-1.家族・友達の大切さ	153	17.43	6-1.避難行動	21	2.39
1-2.人との絆・つながり	67	7.63	6-2.危機管理や防災意識の高揚	19	2.16
1-3.地元を大切にしよう	8	0.91	6-3.災害時の食糧	15	1.71
1-4.その他	8	0.91	6-4.防災グッズ	10	1.14
2.日常性の大切さ・運命の受容・	114	12.98	7.恐怖心・不安・過敏性・回避の増大	52	5.92
2-1.当たり前の生活が当たり前でなかった事に気づいた	59	6.72	7-1.恐怖心・不安	22	2.51
2-2.運命の受容・不条理・自己の使命	30	3.42	7-2.回避・フラッシュバック	18	2.05
2-3.命の大切さ	19	2.16	7-3.過敏性	12	1.37
2-4.日本の国民性・日本社会について	6	0.68	8.視野の広がり	43	4.90
3.柔軟性・寛大・精神的タフ・精神的成熟	111	12.64	8-2.視野の広がり・ニュースに関心	19	2.16
3-1.精神的成熟・寛大	56	6.38	8-2.災害への思い	12	1.37
3-2.柔軟性	28	3.19	8-3.原発・放射線	12	1.37
3-3.精神的タフ・客観的に	27	3.08	9.日々を大切に・風化への心配・その他	43	4.90
4.節水・節電などエコライフ志向	106	12.07	9-1.人生を大切に・精一杯生きる	35	3.99
4-1.ライフラインの大切さ	85	9.68	9-2.風化への心配	4	0.46
4-2.資源の大切さ・無駄遣いをしない	19	2.16	9-3.その他	4	0.46
4-3.その他	2	0.23	10.自然の脅威・人間の弱さ・無力感を感じた	25	2.85
5.愛他精神	83	9.45	10-1.自然の脅威	16	1.82
5-1.愛他精神	41	4.67	10-2.無力感	7	0.80
5-2.ボランティア精神	38	4.33	10-7.その他	2	0.23
5-3.感謝の気持ち	4	0.46	総計	878	100.00

表2 自分へのメッセージのカテゴリ内容とその割合

カテゴリ	数	%	カテゴリ	数	%
1.教訓・感謝を忘れずに	229	37.91	5.絶望せず・希望を持って頑張れ	47	7.78
2.今を精一杯生きろ	117	19.37	6.ねざらい・休憩・マイペースで！	40	6.62
3.思いやりのこころを	100	16.56	7.冷静に、正しい判断力の習得を	15	2.48
4.日常の防災意識・エコライフを	55	9.11	総計	604	100.00

【考察】大震災の体験を通して、人は家族・友人・地域の人達との絆、日常の当たり前の生活が当たり前ではなく様々なものに支えられていたこと、生活の物資・資源を大切に生きなければならないことを再確認し、感謝の念と愛他・ボランティア精神・危機管理意識が高まり、視野の広がり・精神的な柔軟性の獲得、運命や伝統の受容など、今までの生活の中では日常性に埋もれていた側面の認識を新たにしている。一方 PTSD 症状の恐怖心・過敏さ、回避行動が 5.92% 見られた。また、文明社会の中で忘れがちな自然への脅威を自覚させられた。今後の生きる指針にも、震災が与えた認識の変化に応じてそれなりの影響を及ぼしている事が示唆された。謝辞：本研究は、東北福祉大学感性福祉研究所における文部科学省の戦略的研究基盤形成支援事業（平成 24 年度～平成 28 年度）による私学助成を得て行われた。